

B—61 ウエスト寸法の運動時における変動について

和洋女大文家政

伊藤秀三郎

村田八千代

○滝沢 初美

菅沼 滋子

安達 温子

1. 私達が日常生活にはいているスカートは、直立の時に正しく採寸したウエスト寸法で、作成されたものである。運動をする例えば電車のつりかわに対して右手を上げる、あるいは椅座の場合、前屈して床の物を手で取る、また、食事をするとかの前後に圧迫および、ゆるさを感じるが、この状態の様相がどうであるかを、求める目的で本実験を試みた。

2. 被験者は、本学家政科の学生（年齢19歳～20歳）および本学付属高等学校の生徒（年齢17歳～18歳）併せて300名を選び、その人体計測後、下着の上にインサイド・ベルトをしめた場合と、スカートを着用せる場合とにおいて、種々なる動作を行なわせ、ウエスト寸法を測定した。

3. 直立運動時のウエスト寸法の変動は、大学生より高校生の方が大きい。椅座の場合も前項と同様であり、運動時はかえって高校生より大学生の方が大きい。